

# 月が水星、土星に接近



天空が広がる一覧三山の台(久住山系、祖母山系、阿蘇山系の山々を一望できる)であるうぶやまの高原には、積雪があり大変寒いのですが、晴れていれば肉眼で見える限界の6等星や天の川まで見える素晴らしいうぶやまの星空を楽しみませんか。

## 指導コラム(天体観・見どころ)

2月のうぶやま天文台の星空情報の第2弾は、2月20日に水星が東方最大離角になるという天文現象です。

水星は、太陽系の中で最も太陽に近いところを公転している惑星です。地球から見ると、いつも太陽の近くにあるため、観察しづらい天体の一つです。そんな水星ですが、2月20日の東方最大離角の頃に、見かけ上太陽から少し離れて見えるため、観察のチャンスが訪れます。2月6日～25日までは、日の入りの30分後に水星(−0.5等級)の高度が10度を超えて見やすくなります。水星は、時間とともに空の低い位置に移動し、やがて沈んでしまうため、1時間後までの間に観察すると良いでしょう。

この時期の西の空には、水星より少し高い位置に土星(1.1等級)も見えています。さらに、水星より先に沈んでしまいましたが、低い位置にある金星(−3.9等級)は、かなり明るく輝いているため、地平線まで見渡せる場所では見えそうです。もし水星がうまく見つけられないときには、土星や金星を目印にして探してみよう。

(次ページへ続きます。)

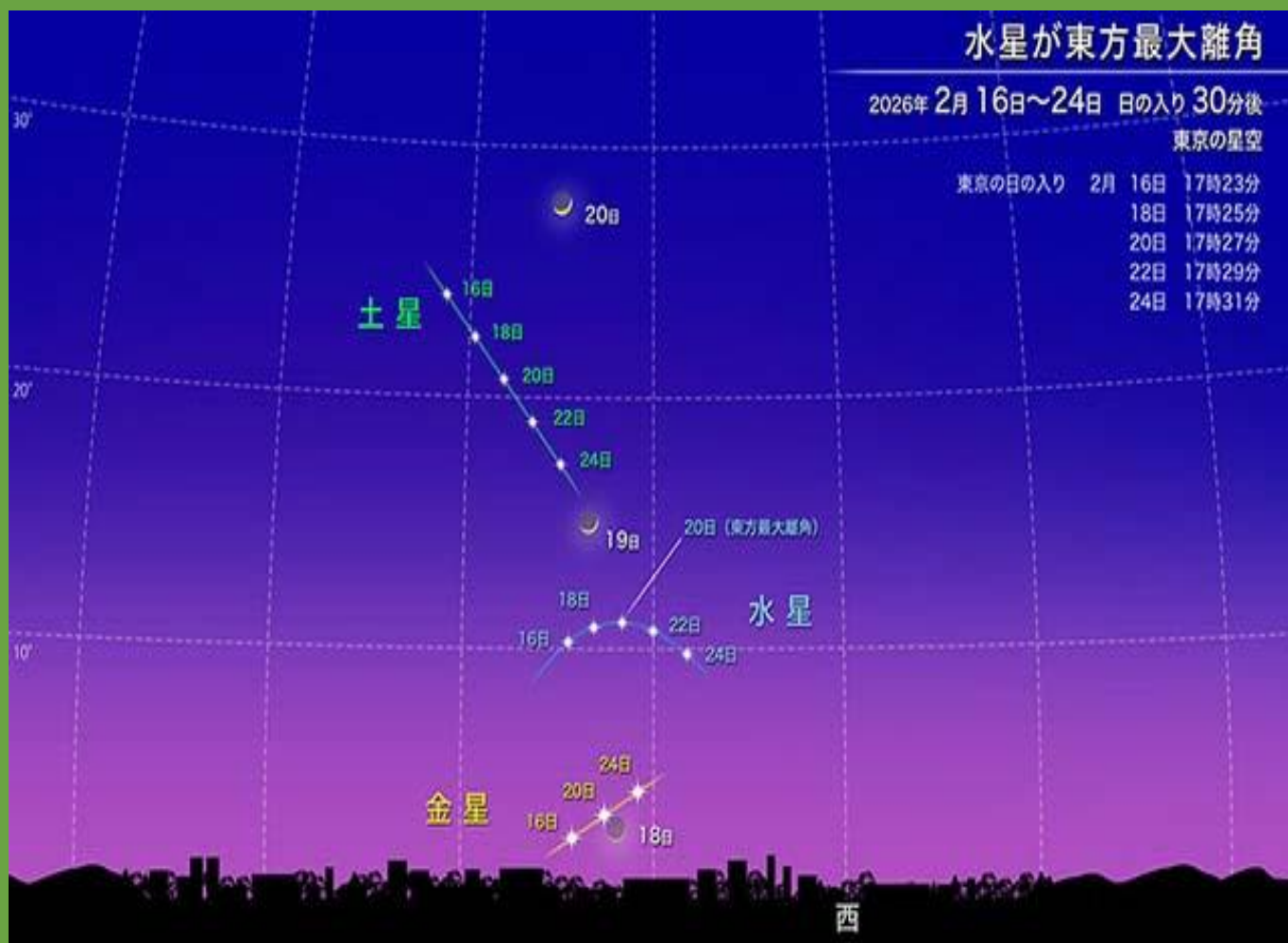
# 観察対象

## 水星が東方最大離角

2026年 2月 16日～24日 日の入り 30分後

東京の星空

東京の日の入り	2月	16日	17時23分
		18日	17時25分
		20日	17時27分
		22日	17時29分
		24日	17時31分



水星が東方最大離角